

『アット・オウム』書評掲載のお知らせ

『週刊朝日』5・1号(本日4月21日発売)に  
 評者鎌田慧さん(ルポライター)の  
 『アット・オウム』書評掲載!!



アット・オウム  
 向こう側から見た世界

写真・文●古賀義章  
 希望小売価格●2,200円+税 判型●A5判・並製  
 頁数●226P 初版部数●2,500部

若者はなぜオウム真理教に惹かれたのか。地下鉄サリン事件当時、週刊誌の記者をしていた著者が、20年後の「なぜ」をあらためて問いかけたドキュメンタリー。約160点のオウム施設の写真、元信者のインタビュー、そして坂本弁護士殺害事件が起きた当日の夜の麻原彰晃の説法などを収録。この記録は、いま我々に何を語りかけるのか。

週刊朝日 書評

### 自己判断を放棄させる集団生活の悲惨

古賀義章

オウム真理教に「地下鉄サリン事件」から二十年がたつて、マスコミはそれぞれ特集記事や番組をつくった。二十年たつても、電車の中から、いきなりサリンをまかれた被害者や家族の後遺症は、いまだに続いている。

なぜ表面目な若者たちが、カルト集団にわたれるようになったのか。カルト集団がなぜサリンをばらまいたのか。高学歴のエリートたちが、なぜ大量殺人を犯したのか。知性はブレーキにならなかったのか。判らぬことだらけである。著者はこの問題を、一般信者からの聞き書きと、宿舎に運ばれた生活の断片の撮影から問いかけています。

世にあふれている出世主義と享楽主義にたいする反感、不安や苦悩を抱え、自己犠牲的な生活をしたかった若者たちが、きわめて世俗的な野望(国会議員を出したり、官僚を支配したり、さらには軍隊を創設するなど)をもつ教祖は、すべて捨てて犠牲するパラドックス。

しかし、オウム真理教にだけ問題を特化できないのは、同志を大量にリンチ殺人した連合赤軍や、爆弾事件を引き起こした若者たちもいるからだ。密閉集団の信者が、資金が潤沢になると、指図性を争う性格体質が生まれ、暴走するようになる。「幹部信者のなかには、与えられる権力やお金が大きかったこともまたり込んだ動機になっていたと思えます。人によつてはただ十代や二十代で何千万円も使ったり、「戦略」事件を起こした研究費の通常ではあり得ないような資金が与えられた。自分のやりたい研究ができること、自家の動機だ」と語った人が何人もいます(ある元信者の証言)。

俗世のむこう側から見た世界だ。この証言者は、警備隊がサリンに強制捜査をやつて来たとき、信者たちが一斉に「教団を救え」と叫んでいたのに、幹部の一人が「もうこんなことはいくらもなくていい」と言ったという。当時、幹部たちが暗い表情をしていたこと、知らなかった、騙されていた、信者も得した自分たちがあの重大犯罪を支えていたのだ、という身を責めようという責任感と反省が湧いてくる。知らなかった、騙された、信者も得した自分たちがあの重大犯罪を支えていたのだ、という身を責めようという責任感と反省が湧いてくる。知らなかった、騙された、信者も得した自分たちがあの重大犯罪を支えていたのだ、という身を責めようという責任感と反省が湧いてくる。

鎌田慧

ルポライター

2015.5.1

無料ファックス 0120-009-936 無料電話 0120-029-936

●ご担当者  
 ●電話番号  
 ●注文日

●既刊 [2015.3.20発行]  
**アット・オウム 向こう側から見た世界**  
 写真・文●古賀義章  
 希望小売価格●2,200円+税 ISBN978-4-7808-0218-4 C0036

150-0001 渋谷区神宮前2-33-18 #303 books@pot.co.jp 本の詳細情報はウェブサイトへ→http://www.pot.co.jp/

●「現物を見て注文したい」「見本として見たい」といった場合は1冊の注文でも構いません。ぜひご注文下さい。

●このチラシの書籍には、返品期限はありません。小社ではいつでも返品入帖しますので、長期間の陳列、販売をお願いします。

※返品上のトラブルがあった際には、お手数ですが小社までご一報ください。[ポット出版担当・返品了解者 那須ゆかり]

●取次→トーハン・日販・大原屋・大洋社・栗田・中央社・八木書店・JRC・文苑堂 ●取引コード3795

●このファックスのご案内が不要のときはご面倒でもフリーファックスに返信ください。書店名とファックス番号を入れていただければ確実に止められます。